

平成25年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
蚕糸・地域特産部門

高度な技術に基づく優良繭生産と干し柿生産による周年労働体系の確立

○氏名又は名称 芦澤 定弘

○所在地 山梨県南巨摩郡富士川町

○出品財 経営（養蚕）

○受賞理由

・地域の概要

富士川町は、山梨県の西南端に位置し、西を南アルプスに、東を天子山地に囲まれた山間地で、自然に恵まれた地域である。古くから地域の自然環境に適したお茶、ゆず、たけのこ、曙大豆、もも、ぶどう等が栽培・生産され、ゆず、西洋なし、曙大豆を使った加工品が生産されている。養蚕の盛んな時代には中北部はかつての名だたる養蚕地帯であった。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

芦澤氏は、昭和50年に就農し、同氏の父とともに養蚕経営を開始した。平成10年から干し柿（ころ柿）を導入。現在の経営耕地面積は、桑園3.4ha（うち借地2.4ha）、樹園地1haであり、そのうち樹園地では干し柿用のころ柿を栽培しており、「養蚕＋干し柿」による周年労働体系を確立し、安定した農業経営を可能とした。

平成24年度は、飼育回数6回、繭生産量は2トンで、国内でも有数の大規模かつ省力的な養蚕を実践。普通蚕品種に比べてきめ細かな飼育管理が要求される極細繭糸織度の特殊蚕品種「白麗（ハクレイ）」を組み合わせ、「量から質への転換」を目指している。

・受賞者の特色

(1) 桑園管理

養蚕の休廃止により遊休桑園が増加しつつあった自宅周辺の優良桑園を借り受けて規模を拡大。「ナギナタガヤ」を畝間に植え、除草剤を使用しないで雑草防除を行うなど工夫を行っている。

(2) 特殊蚕品種飼育の導入と優良繭生産

「白麗」は、織度が細く、生糸へ加工する際、繭糸がほぐれにくい蚕品種であるため、優良繭を生産するための工夫として、大小3台の除湿器等を組み合わせて、上蔭室の湿度を70%以下に保持するなど、飼育環境の最適化に努めており、夏の高湿高湿の時期においても安定した繭生産を実現している。

(3) 干し柿の導入による経営の安定化・周年就農体系の確立

平成10年から養蚕の作業がない秋～冬期間の作物として「干し柿」の生産を導入し、年間を通じた労力の平準化・周年労働体系を確立し、養蚕に次ぐ経営の柱となっている。

(4) 後継者と海外の養蚕技術者の育成

次男に高度な養蚕技術を継承するため後継者養成に奮闘している。また、平成11年から蚕の飼育期間にフィリピンからの養蚕研修生を1～2名受け入れ、桑栽培や蚕飼育技術全般の研修指導を行っている。さらに、海外からの研修生の受入にとどまらず、平成11年以降、毎年冬期に、フィリピンを訪問し、技術指導を行っている。

・普及性と今後の発展方向

芦澤氏は、山梨県内の養蚕農家と絹織物業者が一体となり絹製品づくり・販売に取り組む提携グループ「ふじやまプロジェクト」の中核的メンバーとして、川下からのニーズに対応した優良繭の生産・供給に努めるとともに、今後の新しい養蚕経営のモデルを目指すこととしている。

また、高い養蚕技術を活かした稚蚕飼育は、山梨県の全養蚕農家の稚蚕飼育を受託しており、山梨県の養蚕振興にとって不可欠なものとなっている。

さらに、複合部門の干し柿については、冬期間の労働力・施設を有効利用し、独自の販売ルート開拓によって安定的な収益を確保しており、芦澤氏の経営は、大規模養蚕複合経営のモデルとなるものである。